

巻頭言

会長 藤田千尋 (常盤台神経科)

最初の“あるがまま”が、2001年9月のことでしたから、早くも5年が経ちましたが、このニュースレターをもって終結と致します。

森田療法のメッカでもあった興生院が、多くの思い出を残したまま無くなった跡に、授産施設「街」が新しく誕生し、その建物の一隅に森田療法の資料保存室が出来たのは、その少し前のことでした。

森田療法を継承され、その診療、研究、教育に尽力された高良武久先生畢生の偉業を称え、その一貫した趣旨を継承し、また関連資料を保管する目的から、興生院の同志を中心に門下生一同が相寄り、相集まって衆議し、その目的に添った会を作る事が決まり、「高良武久・森田療法関連資料保存会」が発足しました。そして、ニュースレターを通して、活動内容や現状を会員に広く呼び掛け、森田療法の啓蒙や普及の活動を行い、それなりの成果を上げて今日に至りました。その事業としてこれ迄も、年に二回の割合で、講演会や座談会を催し、高良先生の活躍や興生院の思い出を通して、森田先生、下田先生、或は野村先生や竹山先生らの森田療法の動向に関連したエピソードなど語り合っていました。

また、入手出来る限りの資料の収集やその整理、保管、リスト作成など、その成果は決して少ないものではありませんでした。

その実績の裏には、メンタルヘルス岡本財団の岡本常男氏の多大なご援助や慈恵医大精神医学講座の前教授の牛島定信先生、現教授の中山和彦先生を初めとする同講座の先生方の方ならぬご協力、また生活の発見会の横山博氏や同会の方々、また地域一般の人たちのご支援など、枚挙にいとまのない程のご助力のあった事を心に深く銘記し、厚く感謝申し上げる次第であります。

この保存会の存続やその活動も継続して、今後も更なる成果を願う気持ちに変わりはありませんが、慈恵医大精神医学講座においても、新たに中山和彦教授がご就任になられたのを機に、そろそろ、われわれ役員も代替わりの時期かと思えます。今回、

この保存会の講演会もこれを最後とし、また、それは同時に、今回の中山先生のご講演を新たな保存会の出発点として、臨むことが時宜に適ったものとする所存で居ります。

この度のご講演につきましては、森田療法の成立をめぐる重要な資料のご検証をお話下さるとか、この領域にもご精通の由と伺って居りますが、日頃の蘊蓄のご披露に大いなる期待を申し上げる次第であります。(06.04.04)

長年の応援を有難うございました

事務局長 増野 肇

高良武久先生が亡くなられてから9年がたちました。先生のご遺族が寄贈された高良興生院の跡地に建設された、精神障害者の就労センター「街」のなかに、先生が残された書籍を中心に、先生が取り組まれた森田療法の実践の記録を保存しようという趣旨で、高良武久・森田療法関連資料保存会が組織され、多くの方のご協力を得て、これまで、さまざまな事業を行ってきました。この図書室を整備し、森田療法や高良興生院の理解に役立つような展示室にするとともに、先生の残された資料を管理し、さらに、関連する文献を収集し、充実させてきました。一般の方も対象とした講演会なども年に2回開催してきました。また、図書室は、就労センターのメンバーの方に管理をお願いし、作業の一環にもなるようにしてきました。

しかし、5年が経過したことで、一応の役割は果たしたと考えました。保存会の役員も、加齢とともに、活動も制限されるようになって来ました。そこで、これまでの保存会は、一応、区切りをつけて、今後は、就労センター「街」の事業の一環として、われわれが協力する形式にすることを考えています。

そのようなわけで、今回の講演会は、われわれが企画する最後のものになると思いますので、奮って誤算かいただき、保存会の今後についてもご意見をお聞かせください。

お話は、今回、牛島教授の後を継がれた、中山和彦慈恵医大精神科教授に、森田療法が誕生する前の、外伝的なもの、井上円了や中村古峽との関係、故郷の土佐で取り組んだ〈犬神憑き〉の研究など、さまざまなことに関心を持たれていた森田先生が、森田療法へと導かれていった軌跡をたどる面白いお話が聴けると思いますので、周りの方をお誘いの上、ご参加下さい。



高良武久・森田療法関連資料保存会

春の講演会

森田療法に先立つ

「祈禱精神病」研究について

東京慈恵会医科大学 精神医学講座 中山和彦 教授

日時：2006年5月27日（土）14：00～16：00

場所：就労センター「街」3階ホール

東京都新宿区中落合1-6-21 電話 03-3952-9975

西武新宿線下落合駅または中井駅より徒歩8分（都営大江戸線中井駅からは徒歩10分）

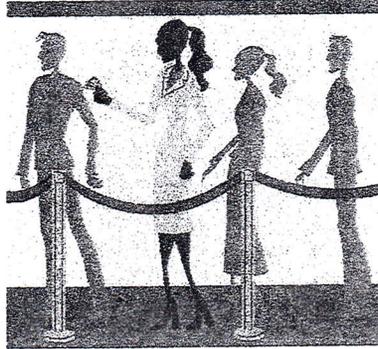
参加費：無 料

春の講演会は、今回、牛島先生の後を継いで、慈恵医大精神科教授に就任された中山和彦先生に、先生が関心を持たれていて、学会でも発表をされているご研究について、お話を伺うことにしました。

森田先生は、いろいろなことに関心を持たれ、迷信のようなものでも、一応取り上げて調査するということをされていましたが、故郷の土佐で、当時問題となっていた犬神憑きについて、それを研究して報告されています。東洋大学の創始者井上円了に心酔し、「妖怪学講義」「心理療法」などを読んでいたことや、実弟が精神障害で亡くなったことから精神療法に取り組んだ中村古峽の催眠術に関心を持つとともに、「変態心理」の編集に協力をしています。これらのことが、森田療法創始にいたる鍵を握っているということで、お話をさせていただきます。また、これまで知られていなかった第3の人物として、杉村楚人冠の「仏教清教徒同士会」についてもお話をいただけるということで、面白いお話が期待できます。

なお、中村古峽の「変態心理」復古版を、新しい資料として就労センター内「文庫あるがまま」に揃えました。この点からも有意義なお話が聞かれると期待しています。多くの方のご参加をお待ちしています。

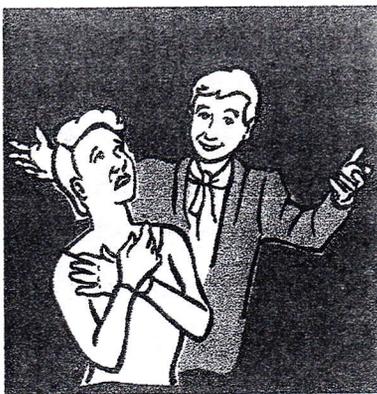
ソシオドラマ「森田療法の誕生」



昨年8月に上演して好評だった「森田療法の誕生」を再度、7月に上演します。中山先生の講演も参考にして、新しい事実も挿入して上演しますので、ぜひ見に来てください。

日時 7月29日 14:00～16:00

場所 就労センター「街」 3階ホール



出演 . . .

増野ゼミを中心とした有志

